

## 北九州市立文学館の取組みについて

### 1 文学館の設置目的

北九州市立文学館は、本市ゆかりの文学者の顕彰と次世代への継承を目的に、平成 18 年 11 月に開館した。

文学資料の収集や保存、研究等を行うとともに、その成果を生かした企画展や講演会の開催、全国規模の文学賞の実施などをとおして、文学の普及・啓発に取り組んでいる。

### 2 これまでの主な取組み（平成 18 年度～平成 29 年度）

#### （1）入館者及び展覧会の開催状況

入館者数は、開館当初、年間 1 万人前後で推移していたが、本市ゆかりの作家や著名作家の企画展の開催等により、ここ数年は 2 万人を超え、累計で約 18 万人（平成 29 年 12 月末現在）の入館者が訪れるなど、その成果が表れてきている。

年 度	入館者数	主な企画展
平成 26 年度	26,564 人	「宗左近展」、「赤毛のアン展」、「ノンタン展」など
平成 27 年度	23,436 人	「ブンガク最前線-北九州発」、「夏目漱石展」、「ピーターラビット展」など
平成 28 年度	24,743 人	「司馬遼太郎展」、「宮西達也ワンダーランド展」など

#### （2）教育普及活動

講座や出前授業等、文学館内外での活発な教育普及活動を展開し、多くの市民に文学にふれる機会を提供してきた実績を持つ。

【大人向け事業】講演会・対談、文学館セミナー、文学館文庫発刊等

【子ども向け事業】読み聞かせ、企画展に係るワークショップ等

#### （3）充実した所蔵資料

火野葦平、橋本多佳子、宗左近などの文学資料が文学館に寄贈・寄託されている。

市民の財産ともいえるべき貴重な文学資料の受け皿としても機能してきており、現在までに、12 万点超の所蔵資料を有する。

#### （4）全国規模で実施する文学賞

平成 26 年度に創設した「林芙美子文学賞」には、全国から多くの応募がある。

また、子どもの文学的才能を伸ばすという観点から「子どもノンフィクション文学賞」や「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールなども実施している。

### 3 文学館における課題

文学館の開館後10年間で文学を取り巻く環境は大きく変化し、インターネットをはじめとする様々な情報メディアの普及による生活環境の変化や、活字離れが指摘されている。

加えて、小倉城周辺の外国人観光客の増加への対応など、文学館の展示のあり方にも変革が求められてきている。

また、現在の文学館における展示対象が、明治から昭和までに活躍した作家に留まっており、平成以降に登場した作家の紹介ができておらず、来館者についても、小中学生などの若年層が少ないという課題もある。

### 4 展示リニューアル基本計画の策定

文学館が抱える課題を踏まえ、今後も、文学館が次の時代を担う子どもたちや若者に、本市の豊かな文芸土壌の魅力を伝え、さらにシビックプライドの醸成につなげることが出来るよう、平成29年度に開催した「北九州市立文学館展示リニューアル懇話会」などの意見も参考に、平成29年12月に「北九州市立文学館展示リニューアル基本計画」を策定した。

#### (1) 計画策定までの主な経過

- ◆平成29年4月～8月 北九州市立文学館展示リニューアル懇話会の開催（計4回）  
（展示リニューアルに関する意見聴取）

#### 【懇話会構成員】（6名 ◎座長）

氏名	所属・役職
植田 詩生	リビング北九州 編集長
江口 恵子	梅光学院大学 特任教授
加賀美 清之	北九州市立文学館友の会 副会長
金 成子	株式会社アヴァンティ 常務取締役 北九州支社長
◎ 近藤 倫明	北九州市立大学 学長特別顧問
まはら 三桃	作家

- ◆平成29年5月 市政モニター、文学館友の会会員アンケート実施  
（文学館に関するアンケート調査）
- ◆平成29年8月 障害福祉団体・小学生・大学生による利用体験  
（文学館を利用した感想や意見を聴取）

## (2) 計画の概要

### ア 基本理念

「まちの記憶を刻み、まちの誇りを未来につなぐ文学館」

### イ リニューアルの整備方針

文学館の強みとメリット、入館者のニーズ、現状と課題を踏まえた上で、次の3点をリニューアルの整備方針とし、文学館をより一層充実させる。

<b>1 みんなの文学館 ～みんなで学び、育てる文学館～</b>
<p>本市ゆかりの文学者の文芸資料を活かした展示や、同人誌などの北九州らしい展示を行うとともに、ユニバーサルデザインに基づいて、誰もが気軽に足を運び、情報交換ができる「みんなの文学館」を目指す。</p> <p>〔例〕平成以降に登場した作家の紹介 年表を簡略化し、代表的な作家に焦点を当てたブース形式の展示への見直し など</p>
<b>2 楽しい文学館 ～誰もが楽しく集える文学館～</b>
<p>活字離れが指摘される中、文学に親しむ機会を提供し、子どもから大人までが楽しく学べる「楽しい文学館」を目指す。また、学校との連携を強化し、次世代の文学ファンを育成する。</p> <p>〔例〕体験型・体感型の展示スペースの設置 リラックスして文学に触れられるスペースの設置 など</p>
<b>3 広がる文学館 ～広く羽ばたく文学館～</b>
<p>文学館の周辺施設（小倉城・小倉城庭園）の外国人観光客の増加にも対応し、北九州の魅力向上やシビックプライドを醸成していく「広がる文学館」を目指す。</p> <p>〔例〕展示の多言語表記やルビ表示 周辺施設との連携 など</p>